

## 議会運営委員会 行政調査報告書

### 1. 日程及び調査先

日 程：令和2年1月14日（火）～15日（水）

調査先：群馬県桐生市、福島県喜多方市

### 2. 調査事項

桐生市……議会改革の取り組みについて

喜多方市…タブレット議会について

### 3. 参加者 青野隆一委員長 星川薫副委員長

菅野修一委員 塩原未知子委員 鈴木清委員 和田哲委員

### 4. 報 告

《委員長 青野隆一》

#### ◎群馬県桐生市議会『議会改革の取り組みについて』

##### 【議会改革の年譜】

- 平成 21 年 6 月 議員政治倫理条例の制定・施行
- 平成 23 年 6 月 議会基本条例の制定・施行議員への会議録冊子の配布廃止
- 7 月 議会報告会・意見交換会の開催
- 10 月 議長交際費の公開
- 平成 25 年 12 月 インターネットによる議会中継
- 平成 26 年 3 月 委員会視察の成果を市長に提言
- 平成 26 年 9 月 政策提言の提出（特別調査委員会の調査結果）
- 平成 28 年 8 月 委員会提出議案（委員会での所管事務調査の結果）  
大学生や高校生・中学生の職場体験受入
- 10 月 まちづくり討論会の開催
- 平成 29 年 12 月 議会市民アンケートの実施
- 平成 30 年 5 月 専門的知見研修会の開催
- 7 月 議会モニター制度の導入
- 9 月 予算要望書の提出（各常任委員会がとりまとめ市長に提出）
- 平成 31 年 3 月 正副議長選挙の立候補制導入  
本会議・委員会欠席理由の見直し（看護や介護など）

群馬県桐生市議会は、早稲田大学マニフェスト研究所の『議会改革度調査 2018』において、昨年に引き続き全国6位になるほど、議会改革に大変力を入れて取り組んでいます。『いちばん身近な頼れる議会』を目指し、その中心的な役割を果たしている議会改革調査特別委員会は、22人中7人で構成されています。検討事項については、議運や会派に諮りながら進めていくという、二段構えとなっています。

議会基本条例は、桐生らしい地方自治の実現を目指すために制定されました。制定をただだけでなく、達成状況を定期的に検証し、必要に応じて条例の改正を行っています。私たちは、基本条例については制定しなくてもできることはやれるということを経験しましたが、住民との対話集会など実現していません。議員構成が変わっても、不断に議会改革を行い、市民に開かれた市議会にしていくためには、自分たちの身の丈に合った、自分たちでやれる内容での条例化は必要であると思います。今後、議会運営委員会を中心に、話し合いを進めていかなければならないと考えます。

◎福島県喜多方市議会『タブレット議会について』

喜多方市では『議会におけるタブレット端末の活用』について視察研修を行いました。

【導入の経過】

- 平成 27 年 9 月 議会改革推進会議
- 平成 28 年 11 月 議会運営委員会先進地視察
- 平成 29 年 9 月 タブレット議会体験会開催（A社）
- 11 月 議会運営委員会先進地視察  
議会 I C T 専門チーム（5 名）設置
- 12 月 講演会（土）総務省地域情報化アドバイザー派遣制度の活用
- 平成 30 年 1 月 タブレット議会体験会開催（B社）
- 2 月 全員協議会（平成 30 年 6 月導入目標）
- 3 月 導入目標時期を 9 月導入に変更
- 4 月 臨時議会 議会タブレット導入事業補正予算 3,275 千円
- 6 月 システム導入業務プロポーザル審査委員会設置
- 9 月 タブレット型端末機の使用等に関する要綱施行 始動開始

導入効果	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>①情報伝達の迅速化</li> <li>②議員活動の充実</li> <li>③危機管理対応の向上</li> <li>④事務の負担軽減</li> <li>⑤紙使用量の削減</li> <li>⑥経費の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①議員のスキル向上</li> <li>②電子データ使用のルール</li> <li>③タブレット活用の拡充</li> <li>④効果の検証</li> </ul>

喜多方市議会のタブレット端末の導入にあたっては、全議員の納得を得られることを最優先し、決して慌てない、できるだけ操作体験を行って機器になじんでもらうという取り組みでありました。また、議会運営委員会、議会改革推進会議、議会 I C T チームという 3 つの会議体での話し合いとそれぞれの役割分担が大変うまく機能していることが、最終的な導入に結びついていると思います。

本市議、会としても、導入の方向性が示されておりますが、議員と当局の意思疎通を密にして、導入までのプロセスを確立していく必要があります。また、議会だよりの編集にも活用が図られ、時間短縮に結びついているとのことでした。

### ◎議会改革の展望

これまで私たち市議会は、議員定数削減や選挙費用の公費負担の導入、議会のインターネット中継など積極的に取り組んできました。特に『議会だより』については、先進地視察を重ね、親しまれる紙面づくりが進んできています。

しかし、議会基本条例がなくてもできるとした市民との対話集会は一度も開催されていません。議員政治倫理条例や議会傍聴規定もあと一步のところまで頓挫したままです。議員なり手不足やタブレットの導入などの課題も多くあります。

市民に開かれた市議会、市議会の見える化を進めていくためには、不断の議会改革が必要です。全議員が参加する議会改革検討委員会を設置し、通線順位を整理して、私たちの任期中にできるところから始めていく必要があります。決して結論を急ぐのではなく、議員間の話し合いを大切にしながら取り組んでいくことが大切です。

〈副委員長 星川 薫〉

◎群馬県桐生市『議会改革の取り組みについて』

桐生市は早稲田大学マニフェスト研究所の「議会改革調査 2018」において昨年度に続き全国6位になっており、議会改革に大変力を入れて取り組んでいる。開かれた議会議をめざして・いちばん身近な頼れる議会議を合言葉に進められてきた議会改革事例をお聞きし、今後の本市における議会の在り方を考えていきたい。下記に取り組まれている例を挙げる。

・「市民に開かれた議会」「市民参加」「議会の活性化」を柱に議会の果たすべき役割と責任を明確にするため**議会基本条例の制定・施行**

・本市では議員が「議会だより」を作成し議会内容を定例会後に配布しているが、市政に関心の高い市民のために、**議会報告会・意見交換会**の開催

・各種団体、大学生、高校生を対象に**まちづくり討論会**を開催

・市議会が**当初予算要望書**を提出（各常任委員会が3項目を掲げ計9項目を要望）

などであるが、本市では議会の内容を知るにはインターネット中継（録画）、傍聴、議会だよりと3つの方法しかない。本市議会も出来るところから開かれた議会に向けて取り組んでいく必要があると考えさせられる視察であった。

◎福島市喜多方市『タブレット議会について』

タブレット端末導入までの経過や活用状況についてご教示をいただき大変貴重な時間だった。タブレット導入は、ペーパーレス化だけでなく郵送コスト削減やスケジュール管理、災害対応など各種にわたり成果が見込まれる。導入には当局との意思疎通も重要であり、また、議員がICTに前向きになる必要があることから、なるべく早い段階で導入を目指し、実務レベルでの研修、検証を行い、移行期間を経て実用化に向けていく必要があると認識した視察であった。

## 《委員 菅野修一》

## ◎群馬県桐生市『議会改革の取り組みについて』

桐生市議会の議会改革の取り組みについて、視察調査の所感を記したい。

桐生市議会議長北川久人氏、同じく議会改革調査特別委員長の園田基博氏が終始説明に当たられたことに感服したところである。調査研修の締めくくりの言葉として、北川議長は「今の議会は、頼りになる。」という市民の声だと語られた。これは大変素晴らしいことだと感動したところである。

桐生市議会は開かれた議会を目指し、平成23年より、議会報告会・意見交換会を各地区で開催し、平成28年から31年まで常任委員会提出議案9案件、そして、議会総意としての政策提言を行い、令和元年9月には、令和2年度当初予算要望書として、各常任委員会より3項目ずつの計9項目を市長に提出している。

また、まちづくり討論会も実施し、地区回りでなく、区長会、大学、婦人団体協議会、各高等学校、商工会議所（新入社員対象）等と幅広く意見交換を行っている。さらには、平成30年専門的大学教授を招いての政策研修会を開催したり、議会モニターの導入で高校生から80歳代までの12人を委嘱し、報告会や意見交換会に出席してもらっての意見を聴取している。これらは、桐生市議会改革実施計画に沿ってステップ良く、改革が更なる改革へと推進されていくと感じたところである。全国議会改革度調査2018では、全国6位にランクされている桐生市議会のモットーは「一番身近に頼れる議会」としており、多くの市民から「頼りになる議会だ」と称賛されれば、議員冥利に尽きるものと思う。

振り返れば、「議会基本条例の制定」について、盛んに議論された平成23年頃、尾花沢市議会としても、基本条例について、議会運営委員会では毎年度、先進市町へ行政視察を行い、県内にあるのは、議員全員で寒河江市議会を訪ね、研修をしたり、大石田町議会の基本条例を学んだりしてきた経緯もある。しかしながら、平成27年の市議会選挙を受けて、設置した議会改革検討委員会では、議員定数の削減（次期改選で16人から14人へ）と3常任委員会から2常任委員会への改革を行うことを決して、検討してきた議員政治倫理条例及び議会傍聴規程の改正までには至らなかったの

である。これまでの尾花沢市議会での議会改革の取り組みの経緯を踏まえて、本当に議会改革に取り組む必要性を議員一人ひとり理解し、共通の課題として共有することが大切であると思う。そして、議員政治倫理条例や尾花沢市議会基本条例について再度検討課題として、俎上に載せ議論していくことが重要だと感じた。まずは、桐生市、喜多方市両市の行政調査を踏まえ、議会へ報告し、本市の議会改革をどうするのかについて投げかけることが、直近の議運の努めではないだろうか。

## ◎福島市喜多方市『タブレット議会について』

議会におけるタブレット端末の活用について、喜多方市議会を視察調査できたことは、大変有意義だったと感じている。これからは、IT機器を駆使する時代だからといって、即議会にタブレット端末導入を決し、導入実施を図るというわけにはいかないことがよく分かり、全員協議会で導入を決めた後、定例議会でタブレット端末を議

員席と執行部席に配置し、完全タブレット議会を開会するまでには、喜多方市議会も丸3年をかけて、講習会を幾度も開催しながら、慎重に進められた経緯を理解することが出来たことは大きな収穫だったと言える。

喜多方市議会は、議会におけるタブレット端末の活用は、議会改革のひとつと位置付けたその大本は議会基本条例の存在であると語る。

平成25年10月、喜多方市議会基本条例の制定がなされ、平成26年6月に議会改革推進会議を設置し、6項目からの検討事項を掲げ、「できることから改革を」を合言葉に議会改革に取り組まれた。その①として、タブレット端末利用によるペーパーレス化、②IT機器の動作環境整備が、推進会議の確認事項とされたのが導入へのスタートとなったのである。

平成29年9月タブレット議会体験会を開き、議員及び当局からのアンケートを求め、その結果を踏まえて、11月に議会運営委員会は、前年度に続き2度目の先進地視察を行い、さらに議会ICT専門チーム（5名）を議会改革推進会議内に、任意の会議体を設置し、導入スケジュール等を検討していくとしている。

平成30年からは、2回の講習を経て、議員の操作レベル向上に努めて、使用の平等化を図っている。そして、同年9月定例会にて、タブレット議会の始動となった。しかし、現在も紙ベースと併用しているとのことだ。

議会におけるタブレット端末の活用は、ペーパーレス化のみならず、議会として各議員が定められた議会並びに議員活動の範疇を存分に利活用するに至れば、文書や情報伝達の迅速化と管理、議会図書室資料閲覧、危機管理対応の向上等々に格段の効果が発揮されるものと確信されたところである。

私も新たな挑戦として、ICT音痴から脱却する目標が出来たと強く意を決してくれた視察研修であった。

## 《委員 塩原未知子》

議会改革の先進地に学ぶ

### ◎桐生市議会【頼れる議会】議員が本気になって議会全体が見える化！

桐生市は一時、議員のなり手不足が心配されたとの事だが、今では全国の地方議会の議会改革度を調査する早稲田大学マニフェスト研究所の「議会改革度調査 2018」で2年連続全国第6位だという。立候補する議員も年々増え、市民にとって「いちばん身近な頼れる議会」を実現するための議会基本条例をはじめ PDCA サイクルに基づく議会改革の検証、議決事件の追加やモニター制度の導入、議会だよりや議会ホームページの改良、議会全体としての常任委員会の予算要望を挙げるなどが高く評価されたとしている。なにより議会事務局と議会が一丸となって議会改革を進化しつづけている事が評価されているのだと感じた。

平成29年11月から平成30年3月まで(17ヶ月間)議会改革実施計画の目標を定め、通常の議会活動の中で、高校生、大学生や企業、団体、地域や市民と数々の意見交換会や専門家の意見を取り入れ、基本条例策定を進めてきた点がすばらしいと感じた。まずは実現できる目標を定め、期限をきって出来るところから実際に進めながら「調査・研究・検討・実施」の議会の進捗を市民に公開している。そして「いちばん身近な頼れる議会」を実現するため、議員自らが、各地に足を運び、議会の仕組みや役割、議会の活動等を説明する「桐生市議会出前講座」を実施している点は大変参考になった。

### ◎喜多方市議会【タブレットで議会改革】開かれた市民目線の議会改革

機種は様々検討した結果「iPad」を採用、数年を経て導入したらしい。

「ICT に対しての抵抗勢力」という言葉で、議員間の格差を表現していたが、その格差すら時間をかけて解決している。話しをする事務局に議員と本気の改革を成し遂げた気迫を感じた。更に2019年にはSNSでの市民との繋がるため「喜多方市議会 Facebook」運用方針を定め、積極的にタイムリーな議会の動きを一般に情報発信しており、視察に伺った日の夕方には「尾花沢市議会の視察風景」その記事が写真付きで情報発信されており、事務局との連携の強さを、移動中のバスの中で更に思い知らされた。

更には「市議会だより」の編集にも、しっかりとタブレットが活躍しており、読者アンケート調査も「市議会ホームページ」を介して行っており、市民の声をネットからも積極敵に拾い、開かれた編集を目指している。また議事録の閲覧は、議会ごと録画と議事録どちらからも日時、人物、キーワード等多彩な検索にしっかり応え、誰もが活用しやすい仕掛けになっており、議会中継の YouTube 録画配信 (平成27年開始) も議会だよりとしっかりリンクされており、議会の見える化、ICT化が進んでいる。もちろん議会全体の働き方改革にも効果を発揮しているようだった。議員間のコミュニケーションや事務局からの連絡は「WowTalk」のグループウェアを活用してペーパーレス化を図っているが、議事録の中でも分量の多い予算書や決算書などは今まで通りのペーパーを併用している点は臨機応変すばらしい。

◎まとめ タブレット導入で議会から働き方改革を！

昨年夏の改選期から、メンバーも半数変わった、過去に捕われず、失敗を恐れずにタブレット端末導入も合わせ議会改革を進めたい。

今年の4月から義務教育過程のカリキュラムにも、生徒全員に端末が配布され英語教育とプログラム授業が新たに組み込まれる。今や電話やメールより SNS や YouTube で情報を入手。これからの 4K、8K 放送時代に 5G や AI は当たり前になりつつある。令和の新しい時代において、先ずは自分たちから変わって行動したい。新しい時代の子も達環境を整備、提言するためにも、尾花沢市議会も議会が一丸となって一歩前進したい。

いつの間にか携帯（3G は 2024 年 1 月廃止）からスマホに、パソコンからタブレットに、、、議会のネット中継も今やあたり前の事ようになってきた。日頃の作業軽減、働き方改革で中身の濃い議員間の議論や調査検討に時間をかけ、少なくなった議員数だが、時間と能力を活かして検討の場をつくっていききたい。望む ICT の活用には、先ず過去資料や議事録を簡単に検索閲覧でき、比較検討できる正しい情報資料のストレスない閲覧環境の整備（資料のデータベース化）こそ必要だと感じている。今後も議会活動や議会改革にどう有効に活用できるのか、任期中に改革が一歩でも前進できるよう、引き続き調査していききたいと思う。



《委員 鈴木 清》

◎群馬県桐生市『議会改革』

全国ランキング6位の桐生市の議会改革は、平成23年の市議選の低投票率（50%）で、「市議会は市民から、どう見えているのか」という反省から始まったという。私たちの議会改革は平成29年に中断したままだ。行政は行政改革、議会は議会改革が、住民自治の発展のために不断の努力が必要だ

私は議会改革の必要性をこの行政調査で学ぶことができた。

議会改革の3つの柱は①情報公開（共有）②住民参加③議会機能強化と言われている。例えば議会だよりは①であり、②の住民との議会報告会・意見交換会のツールとしても重要だ。また③の本丸の一つである議会基本条例も、どこかの時点で作成し、議会がPDCAサイクルに基づき政策集団になるべき事などが大切だとして教示いただいた。

「議会改革で市民はどう変わりましたか」の私の質問に「“今の市議会は頼りになる”という声をいただいています。」という明快な答弁に、充実した内容への自信と誇りを感じ、私たちは再出発すべきだと思った。

◎福島県喜多方市『タブレット議会』

- ① “できることから改革していく”という姿勢に先ず感銘を受けた。議会改革の一環としてタブレット導入までを丁寧に優しく安心感を与えて下さる説明であった。
- ② タブレット導入までは、当局と歩調を合わせ、長い道ゆりを一步一步議論し、進んでいくプロセスであった。例えば、先進地視察・体験会＋アンケート、アドバイザーの講演会・講習会・予算化・機器の選定・要綱づくり e t c の課題がある。
- ③ 進め方は3つの会議体（議運・議会改革推進会議・議会ICT専門チーム）で協議し、全協で議会の総意をつくるスタイルであった。
- ④ 導入の効果は（1）情報伝達の迅速化（2）議員活動の充実（3）危機管理対応の向上（4）事務の負担軽減（5）紙使用量の削減（6）経費の削減である。

以上、私の結論は「私たちの議会もタブレット導入に向かって一步一步進むべきである。」と確信を得た視察であった。

## 《委員 和田 哲》

### ◎群馬県桐生市『議会改革の取り組みについて』

桐生市議会では、平成 23 年に行われた改選を期に本格的な議会改革に取り組んでおり、開かれた議会・市民参加型のまちづくりへ大きな効果を生んでいる。キャッチコピーは「いちばん身近な頼れる議会」で、議員と市民との距離が非常に近いことが特徴である。

具体的な取り組みとして、定例会の翌月または翌々月に『議会報告会・意見交換会』を開催しており、ここでは全議員と自由参加した住民が、議会だよりを資料として直接意見を交わしているため、紙媒体から飛び出した開かれた議会を実現している。開催結果は平成 23 年から現在に至るまで、合計 28 回で延べ 1,555 名の参加状況となっている。その他にも、特定の団体と市議会のみで構成することに限定した『まちづくり討論会』を設けており、情報交換を行うことで、住民と議会がそれぞれの立場における取組みを考える貴重な機会となっていた。一方の議会内の活動としては、予算編成の前に 3 つの常任委員会で 3 つの政策提言を行う。つまり、3 常任委員会×3 項目=9 項目の“会派を越えた議会としての総意”としての当初予算要望書を提出していて、このような取り組みはおそらく全国初。これらの取り組みにより、「頼りになる議会になったね」といった桐生市民からの声を頂けるようになったと、北川久仁議長（現桐生市議会議長）が笑みを浮かべ説明された。

桐生市の『議会報告会・意見交換会』および『まちづくり討論会』いずれにしても重要な共通点は、議員がファシリテーターとなることである。全議員が会派を越えて協力しあい、自らが準備・運営を行う姿勢とプロセスのなかに、議会改革の向上にむけた課題が見つかることは簡単に想像できる。本市においても『議会基本条例』の必要性和重要性を再認識することから始めることが第一歩ではないかと考える。できることから…。

### ◎福島県喜多方市『タブレット議会について』

喜多方市では、平成 26 年から既に議会改革に取り組んでいたが、平成 30 年 9 月に議会会議システム及びタブレットの導入を行うことで、情報伝達の迅速化・議員活動の充実・危機管理対応の向上・事務の負担軽減・資源や経費の削減に成功している。ICT に関わる議員スキルの差が課題となったが、80 歳以上の喜多方市では最年長議員も、データによる資料の受信を確認できるまでに至っている。しかし、側近の会議が円滑なものにするためには、タブレットへの完全移行ではなく、紙媒体とデータ資料を併用する必要があるため、一定期間の事務負担は増加する。段階的にシフトするものと、重要な議事録などのシフトしないものと区別をしたうえで、タブレットを活用していた。

タブレット端末の仕様は、12.9 インチ、64GB で 29 台。Wi-Fi 対応はもちろん、LTE3G に対応しており 100GB までシェアできる。さらに、付帯サービスのビジネスチャットをダウンロードし、連絡事項に“既読機能”を付けることで「聞いた、聞いていない、知らせていない、知らせる時間がなかった」などの議員と行政間のトラブルを解消できる。経費については、端末 2 年リースで、インシャルコストとランニング

コストを合計して5,278,167円。内訳には、会議システムや議場Wi-Fi整備（工事・光回線・プロバイダ）を込んでいる。本市導入ケースの換算をし、検討する必要がある。

あくまでも軸は議会改革。ICTは単なる機器ではなく、改革につながる1つのツールとして導入する必要があると考えるが、その導入効果は大きいと予想する。